

濃度基準値の設定の優先順位

参考3

年度	報告書 ^{※1} の設定数	物質数 ^{※2}	選定基準 ^{※3}
令和4年度	150	118 (67)	リスク評価対象物質（特別則への物質追加を念頭に、国が行ってきた化学物質のリスク評価の対象物質をいう。以下同じ。） ○ 測定・分析方法があるもの…約100 ○ 測定・分析方法がないもの…約20
令和5年度	200	約180	リスク評価対象物質以外の物質であって、吸入に関するACGIH TLV^{※4}-TWA^{※5}があり、かつ、測定・分析方法があるもの ○ DFG MAK ^{※6} や日本産業衛生学会の許容濃度が定められており、ACGIH TLV-TWAと値が一致するもの…約280のうち約55 ○ DFG MAK等のばく露限度が定められているが、ACGIH TLV-TWAと値は一致しないもの…約280のうち約100 ○ 令和4年度検討対象物質のうち積み残し分…33物質（うち測定法のみ7物質）
令和6年度	200	約180	リスク評価対象物質以外の物質であって、吸入に関する職業ばく露限度があり、かつ、測定・分析方法があるもの ○ ACGIH TLV-TWAのみ定められているもの…約280のうち約110 ○ ACGIH TLV-TWAはないが、ACGIH TLV-STEL ^{※7} 又はTLV-C ^{※8} があるもの…約15 ○ ACGIH（TWA・STEL・C）はないが、DFG MAK等があるもの…約55
令和7年度 以降	各年度 200	約390	リスク評価対象物質以外の物質であって、吸入に関する職業ばく露限度があり、かつ、測定・分析方法がないもの ○ ACGIH TLV-TWAがあるもの…約255 ○ ACGIH TLV-TWAはないが、ACGIH STEL又はCがあるもの…約25 ○ ACGIH（TWA・STEL・C）はないが、DFG MAK等があるもの…約110

※1 職場における化学物質等の管理のあり方に関する検討会報告書（R3.7.19）

※3 いずれの選定基準も管理濃度の定めがない物質に限る。

※5 8時間時間加重平均濃度に関するばく露限度値

※7 短時間ばく露濃度に関するばく露限度値

※2 検討した（または検討予定）物質数。括弧内は濃度基準値設定物質数。

※4 米国政府労働衛生専門家会議が勧告しているばく露限度値

※6 ドイツ研究振興協会が勧告する最大職業濃度値

※8 天井値（いかなるときも超えてはならないばく露限度値）